

令和元年度第1回野洲市社会教育委員会議（概要報告）

会議日時	令和元年8月1日（木曜日） 午前10時～午前12時
会議場所	人権センター 交流研修室
出席者	社会教育委員：高木委員長、水島副委員長、北脇委員、駒井委員、政本委員、白石委員 事務局：西村教育長、杉本教育部長、川端教育部次長、渡邊学校教育課長（学校教育担当次長）、進藤文化財保護課長（文化財担当次長）、田中生涯学習スポーツ課長、宇都宮図書館長、角歴史民俗博物館副館長、山本人権施策推進課長、水野スポーツ施設管理室長、小山文化ホール館長、中川生涯学習スポーツ課長補佐、広沢生涯学習スポーツ課主査
傍聴人	なし

●議事

(1) 野洲市社会教育委員会議委員長、副委員長の選出について

○委員長に高木委員、副委員長に水島委員。

(2) (第3次) 野洲市子どもの読書活動推進計画の策定について

○計画（素案）を事務局より説明

◎主な発言（◇：委員、◆：事務局）

◇読書グループやボランティア活動団体に支援を行っているところがあるがどのようなものがあるのか。

◆金銭的なものは難しいが、資料提供ができる。お話し会でよく使われる大型絵本や大型紙芝居などで、野洲図書館になくとも県立図書館から借りることもある。また、読み聞かせの出前講座などもある。

◇何もお金だけでなく如何に子どもが本に親しむために、バックで支援があることで読書グループやボランティア活動団体等も頑張れるのだというものも必要である。

◇子どもの読書量には、土台・背景があるので大人が見向かなければ子どもは見向かない。環境づくりがないことには広がらない。

◇学校では、国語の調べ学習が図書室からコンピュータ室になっていて図書室に行く機会が減っている。全体的に本に触れる機会が減っている。

子どもの想像力を育てるためには国語の力、そのためには読書は大切である。

◇具体的な施策がないと、5年後も実態はあまり変わらないと感じる。

自治会では、図書館からの読み聞かせ会などはサロンの行事などでやっているが、地域の子供達を集めてはいないので、子ども会でもやっていければと思う。

◇大人も子どもも一緒になるには地域で何かを始めないといけない。読書の入口として絵本は大人が読んでも楽しいのでそこから始め、楽しみを持たせ発信していければと思う。

◇計画が計画で終わることが多い。具体性を持って焦点化すること。最終的には評価をどのようにするのか。

◇本を読まない子どもをどう導くか、計画の最初に出てくる家庭における読書活動だと思う。これができる読書嫌いになると思う。

読みたい本は、本屋にある。読んでほしい本は、図書館にある。子どもは色々と興味を持つので、学校図書館も色々なジャンルの読んでほしい本を揃えればと学校の担当の先生と話したことがある。

◇学校図書館の選書はどのようにされているのか。

◆学校図書館担当が中心になって学校で行っている。学校によっては子どもへのアンケートや図書館ボランティアの方の声を聞いていただいているところもある。

◇学校図書館ボランティアの方とともに、興味を持ってもらうような工夫を学校で色々されていると思う。

◆本の廃棄には二つあり、消耗して修理不能で読めなくなったもの。世の中で新しいことが解ってきて、古い本を読むと間違った知識を与えることから廃棄する。そのことから予算の充実により新しい本を広いジャンルで入れられたら良いと思う。

○計画の策定スケジュールを事務局より説明

(3) 社会教育委員の役割について

○事務局より説明

◎主な発言（◇：委員、◆：事務局）

◇諸計画の立案やそのための調査研究など委員それぞれの分野での関わりもあると思う。社会教育委員はどんなことが出来るのか。

◇まちづくりということで、市の枠組みの中でそれを活用してやっている。自治会の中でも社会教育部があるが地域の行事をしているだけなので、仕掛けづくりをしていかないといけない。

◇地域づくり、居場所作り、社会教育委員がリーダーとしての発信が出来ればと感じている。

◇読書との関わりで、読書の機会を増やすこと。最近では街中で本屋が減っているが、付録の中に本があるそんな本で活気が戻っているようで、付録目当てでないがその本を読めばこんな力が付くとか、こんなものが見えてくるということで子どもたちにもっと読書の機会を与えていくことも良いのではと思っている。学校に持ち帰って教員と話してみたいと思う。

◇それぞれの立場、活動を通して学校と地域と家庭の総合化、ネットワーク化にどのように関れるかということで、委員一人ひとりの強みで仕掛けのコンダクターになることも必要と思う。社会教育委員は何が出来るとかをこれからも求め続けていきたい。